

GRIPS開発フォーラム

途上国への社会的投資：社会的インパクト評価をめぐる国際潮流と実践

社会的インパクト評価に関する国際動向、 標準化の動き

2015年9月15日（火）

一般財団法人 国際開発機構

人材開発事業部 藤田 滋

アジェンダ

1. 用語の定義
2. 背景
3. 社会的インパクト評価に関連する既存のフレームワーク/ガイドライン/基準
4. 既存フレームワーク/ガイドライン/基準の整理の枠組み
5. 標準化に向けた取組みの紹介
6. 日本における社会的インパクト評価標準化の動向
7. 社会的インパクト評価の標準化に向けた課題

用語の定義： 社会的インパクト投資

社会的インパクト投資 (Social Impact Investment) =
財務的リターンに加え、正の社会的インパクトを生み出すことを意図した投資

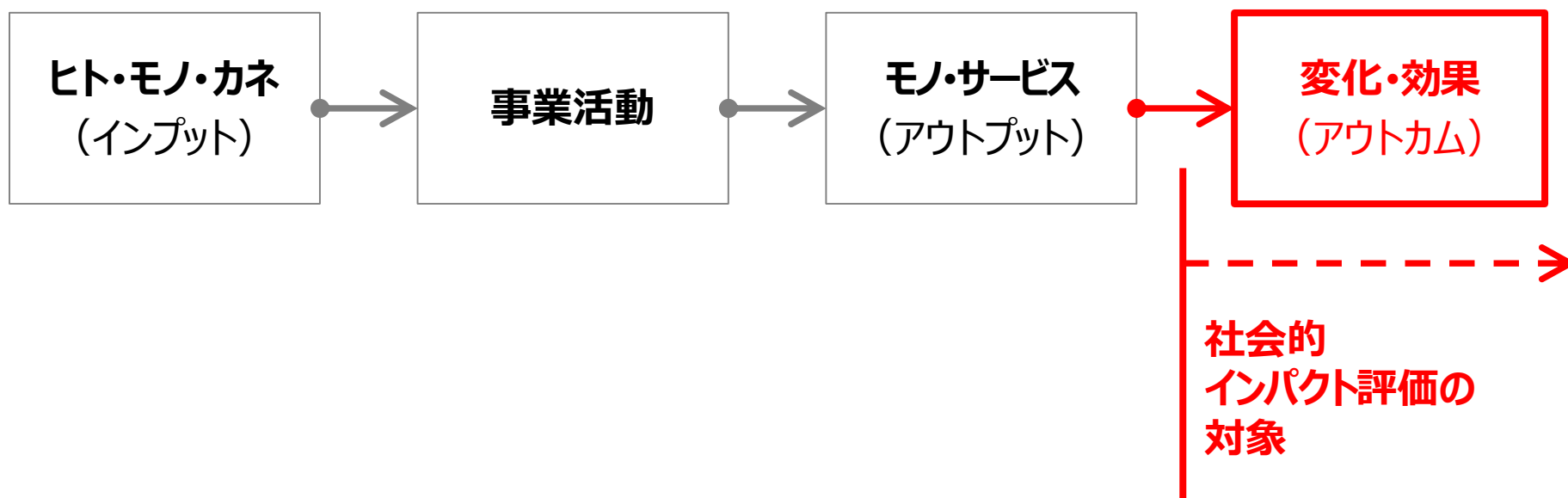
通常の投資と社会的インパクト投資の違い

	通常の投資	社会的インパクト投資
資金の出し手	一般個人投資家、富裕層、 機関投資家	一般個人投資家、富裕層、 機関投資家、 助成財団、開発金融機関
資金の受け手	一般営利企業	一般営利企業、 社会的企業、 (慈善型非営利組織)
投資の形態	出資、融資 (債券、貸付)	出資、融資 (債券、貸付)
投資の判断基準	財務的リターンの最大化	ほどほどの財務的リターン、 社会的インパクトの創出

用語の定義： 社会的インパクト評価

社会的インパクト評価＝

事業の結果ステークホルダーに対して生み出された、**変化・効果**を可視化し、評価すること



背景： なぜ社会的インパクト評価に関する議論が活発化してきているのか

社会的インパクト評価に関する議論が活発化している背景には、**2つの文脈**において事業がもたらす社会的インパクトの可視化・評価へのニーズ・必要性が高まっていることがあります

社会的インパクト投資の文脈

社会的インパクト投資 =
正の社会的インパクトの大きさが投資判断の基準



投資が生み出す/生み出した
正の社会的インパクトの可視化へのニーズ

資本市場における企業報告の文脈

社会的責任投資やESG投資といった、
投資家の投資行動の変化（1990年代～）



サステナビリティ・レポーティングの必要性
= 負の社会的インパクトがないことの報告の必要性

社会的インパクト評価に関連する既存のフレームワーク/ガイドライン/基準

社会的インパクト評価に関しては、様々な組織によって、既に多くのフレームワーク/ガイドライン/基準が開発されています



既存フレームワーク/ガイドライン/基準の整理の枠組み

これらの既存フレームワーク/ガイドライン/基準は、**3つのレベル**に分けて整理できます

レベル	規定される内容
評価の 原理・原則	<ul style="list-style-type: none">• 評価の目的は何なのか• 評価に関連する概念はどのように定義されるか• 評価はどのような原理・原則に基づき行われるべきか
評価の プロセス	<ul style="list-style-type: none">• 評価はどのようなプロセス・手順で行うのか• それぞれの手順では何をするのか• それぞれの手順で何に留意する必要があるか
具体的な アウトカム・指標	<ul style="list-style-type: none">• 評価の対象となるアウトカムは何か• それを何で測定するのか• データはどのように収集するのか

標準化に向けた取組みの紹介：アウトカム・指標レベル

標準化の対象
What

アウトカム・指標

開発組織
By who

Inspiring Impact (英国非営利セクター業界団体のコンソーシアム)

開発年
When

2013年～

想定適用範囲
Where

英国

想定利用者
For whom

事業者（第一義的にはNPO）、助成団体

目的
Why

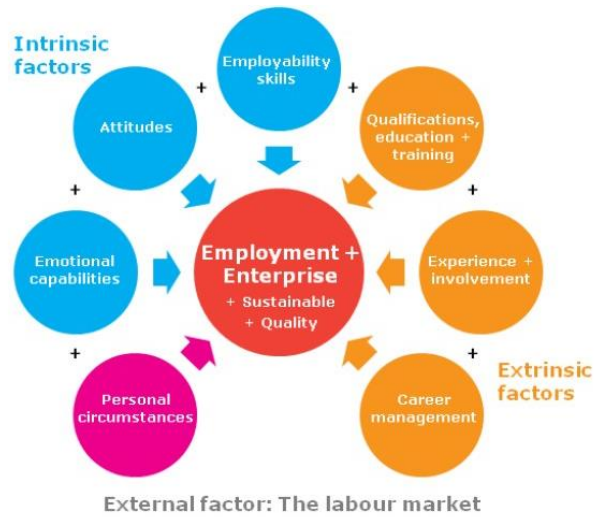
- 事業者間での評価の整合性、比較可能性の向上
- 評価実施者の負担軽減、等

取り組みの概要
How

セクター/サブセクターごとに、共通のアウトカム（shared outcome）と、その指標・測定方法（shared measurement）を設定し、ガイドラインとして公表

(具体例) 若年層の就労支援におけるShared Measurement

Step1: 共通アウトカムの整理



Step3: 各指標の測定方法

Emotional capabilities

Self-esteem

How to measure:

Rosenberg's Self-Esteem Scale (RSES) is a widely-used 10-item scale which measures feelings of self-worth or self-acceptance.

How to score:

	Strongly agree	Agree	Disagree	Strongly disagree
Positive statements	4	3	2	1
Negative statements	1	2	3	4

Sum scores for all items. Higher scores indicate higher self-esteem. *Items marked by asterisks are negative statements and should be reverse scored. Administer the survey at two intervals and compare the answers to these questions to track change over time.

Source: Rosenberg, M. (1965) *Society and the adolescent self-image*. Princeton, NJ: Princeton University Press:
http://www.fetzer.org/sites/default/files/images/stories/pdf/selfmeasures/Self_Measures_for_Self-Esteem_ROSENBERG_SELF-ESTEEM.pdf

Step2: 各アウトカムの指標

Emotional capabilities <ul style="list-style-type: none"> Self-esteem Grit and determination Autonomy and control Empathy 	Qualifications, education + training <ul style="list-style-type: none"> Basic skills Achieving qualifications Attendance and behaviour
Attitudes <ul style="list-style-type: none"> Aspirations for education Attitudes to work Aspirations for work Aspirations for the future 	Experiences + involvement <ul style="list-style-type: none"> Work experience Perception of value of work experience Networks Community involvement
Employability skills <ul style="list-style-type: none"> Teamwork Communication Problem solving Self-management Leadership 	Career management <ul style="list-style-type: none"> Career direction Job search skills Presentation to employers Confidence in finding employment Entrepreneurship
Personal circumstances <ul style="list-style-type: none"> Access to transport Access to the internet Access to childcare Access to support for young carers Reduced substance abuse Reduced offending/anti-social behaviour Access to support for young people with physical and mental health problems 	Employment + enterprise <ul style="list-style-type: none"> Entry into employment Sustaining employment Quality of employment Satisfaction with employment

STRONGLY AGREE AGREE DISAGREE STRONGLY DISAGREE

On the whole, I am satisfied with myself	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
At times, I think I am no good at all*	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
I feel that I have a number of good qualities	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
I am able to do things as well as most other people	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
I feel I do not have much to be proud of*	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
I certainly feel useless at times*	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
I feel that I'm a person of worth, at least on an equal plane with others	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
I wish I could have more respect for myself*	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
All in all, I am inclined to feel that I am a failure*	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
I take a positive attitude toward myself	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

出所 : Inspiring Impact (2014)

その他の取り組み

<p>The Global Value Exchange</p> <p>http://www.globalvaluexchange.org/</p> 	標準化の対象	アウトカム・指標	目的	<ul style="list-style-type: none"> 知見の共有 共通言語の確立 評価の整合性向上 学術研究成果の実務へのインプット
	開発主体	Social Value UK		
	開発年	2011年	取組みの概要	<ul style="list-style-type: none"> アウトカム・指標のカタログ。 Wikipediaのように、ユーザーが自由に登録できるボトムアップ方式。 現在、雇用や住宅、保健といった9つのアウトカム・グループに約1800のアウトカムが登録されている（編集途中も含む）。
	適用範囲	グローバル		
	利用者	事業者、投資家		

出所：Global Value Exchange (<http://www.globalvaluexchange.org/>)

<p>Impact Reporting and Investment Standards (IRIS)</p> <p>https://iris.thegiin.org/</p> 	標準化の対象	アウトカム・指標	目的	<ul style="list-style-type: none"> 共通言語の確立 透明性、信頼性、比較可能性の向上
	開発主体	Global Impact Investing Network		
	開発年	2008年	取組みの概要	<ul style="list-style-type: none"> 非財務の報告項目・指標のカタログ。アウトプットレベルの項目・指標が主。 農業、教育、保健等、10のセクターごとに、5つの領域（組織説明、製品説明、財務パフォーマンス、業務インパクト、製品インパクト）について指標を設定。
	適用範囲	グローバル		
	利用者	事業者、投資家		

出所：IRIS (<https://iris.thegiin.org/>)

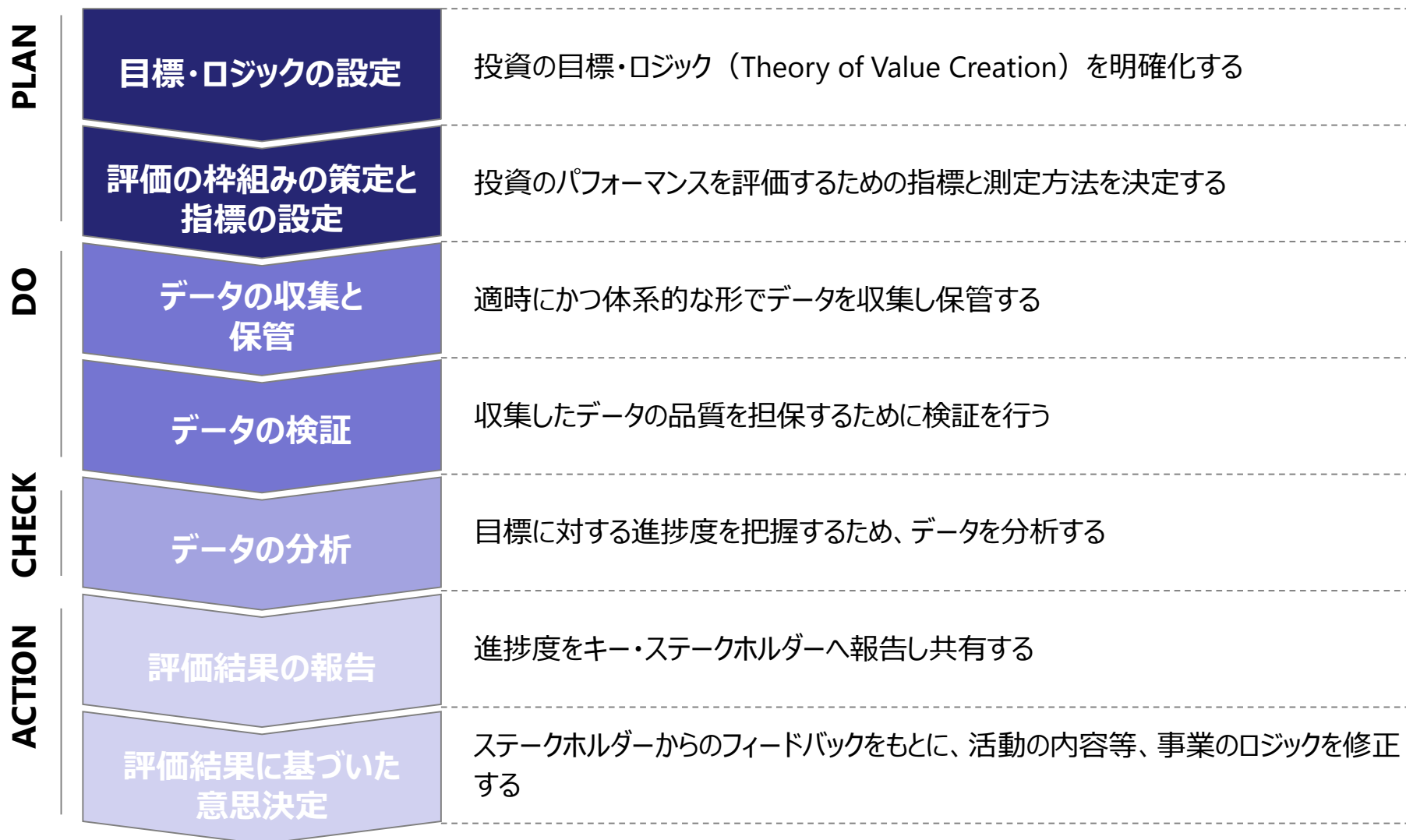
標準化に向けた取組みの紹介：プロセス・レベル

Impact Measurement Convention

標準化の対象 <i>What</i>	プロセス、(原理・原則)
開発組織 <i>By who</i>	G8 Social Impact Investment Taskforce
開発年 <i>When</i>	2014年
想定適用範囲 <i>Where</i>	グローバル
想定利用者 <i>For whom</i>	投資家、(事業者、中間支援組織、行政、等)
目的 <i>Why</i>	<ul style="list-style-type: none">・ (効率的な資源配分を通じた) 社会的インパクト投資の生産性の向上・ 投資の透明性、説明責任の向上、等
取り組みの概要 <i>How</i>	事業の社会的インパクトをアウトカムレベルで評価する上での、7つの評価プロセスを規定し、それぞれについてガイドラインを設定。

出所 : G8 Social Impact Investment Task Force (2014), FASID (2015)

Impact Measurement Conventionが定める評価のステップ



出所：G8 Social Impact Investment Task Force (2014)

(参考) 特定非営利活動法人クロスフィールズにおける評価の事例

- クロスフィールズは、組織のマネジメントサイクル（PDCAサイクル）に社会的インパクト評価を組み込んでおり、G8 Impact Measurement Conventionに近い形で評価を実施しています。

クロスフィールズにおけるマネジメントサイクルと社会的インパクト評価（「留職」事業の例）

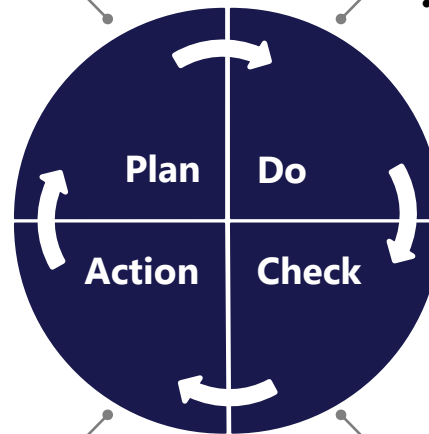
1. 事業計画

- 目指す社会的インパクトにいたる戦略（ロジック）の明確化
- KPIの設定（アウトプット・アウトカム双方）、データ収集方法の開発

留職事業の例 |
- リーダーシップ・アセスメントシートの開発

2. 事業実施

- 通常の事業活動に組み込んだデータ収集
- 留職事業の例 |
- プロジェクト実施前後でプロジェクト・マネージャーがアセスメントを実施



4. 事業改善


- 評価結果に基づいたプログラムの改善、新規事業の立上げ
- 留職事業の例 |
- 出現率の維持・向上に向けた施策の実施

3. 事業評価

- KPIの達成度に関する四半期ごとのモニタリング
- 留職事業の例 |
- 基準を満たすリーダーの出現率をKPIとしてモニタリング

出所：筆者作成

その他の取り組み

<h3>EU Standards for Social Impact Measurement</h3> 	標準化の対象	原理・原則、プロセス	目的	<ul style="list-style-type: none"> 一義的には、「欧州社会起業ファンド」と「雇用と社会革新プログラム」における社会的インパクトの評価・報告のため
	開発主体	欧州委員会（社会的インパクト評価手法開発のためのサブグループ）		
	開発年	2014年	取組みの概要	<ul style="list-style-type: none"> 6つの原則と、5つのプロセスを規定。 厳密な比較可能性は目指さず、プロセスの標準化で一定の比較可能性を担保するとのスタンス。 また、比例性（proportionality）を積極的に認めている点も特徴的。
	適用範囲	EU域内		
	利用者	事業者、投資家		

出所：Group d'experts de la Commission sur l'entrepreneuriat social (2014) , FASID (2015)

<h3>SROI</h3> <p>http://socialvalueuk.org/</p> 	標準化の対象	原理・原則、プロセス	目的	<ul style="list-style-type: none"> 社会的インパクトに関する生産性の向上 投資家や行政の意思決定に有用な情報の提供、等
	開発主体	Social Value International * 旧SROI Network		
	開発年	1997年	取組みの概要	<ul style="list-style-type: none"> 7つの原則と、6つのプロセスを規定。 ステークホルダー参加型アプローチであること、最終的にアウトカムのバリュエーション（貨幣価値換算）することが特徴。 Social Generally Accepted Accounting Principle (SGAAP)を目指す。
	適用範囲	グローバル		
	利用者	事業者、投資家、行政		

出所：Social Value UK (<http://socialvalueuk.org/>), FASID (2015)

標準化に向けた取組みの紹介：原理・原則レベル

国際統合報告フレームワーク

標準化の対象

What

企業報告に関する原則

開発組織

By who

International Integrated Reporting Committee (国際統合報告評議会*)

開発年

When

2013年

想定適用範囲

Where

グローバル

想定利用者

For whom

企業

目的

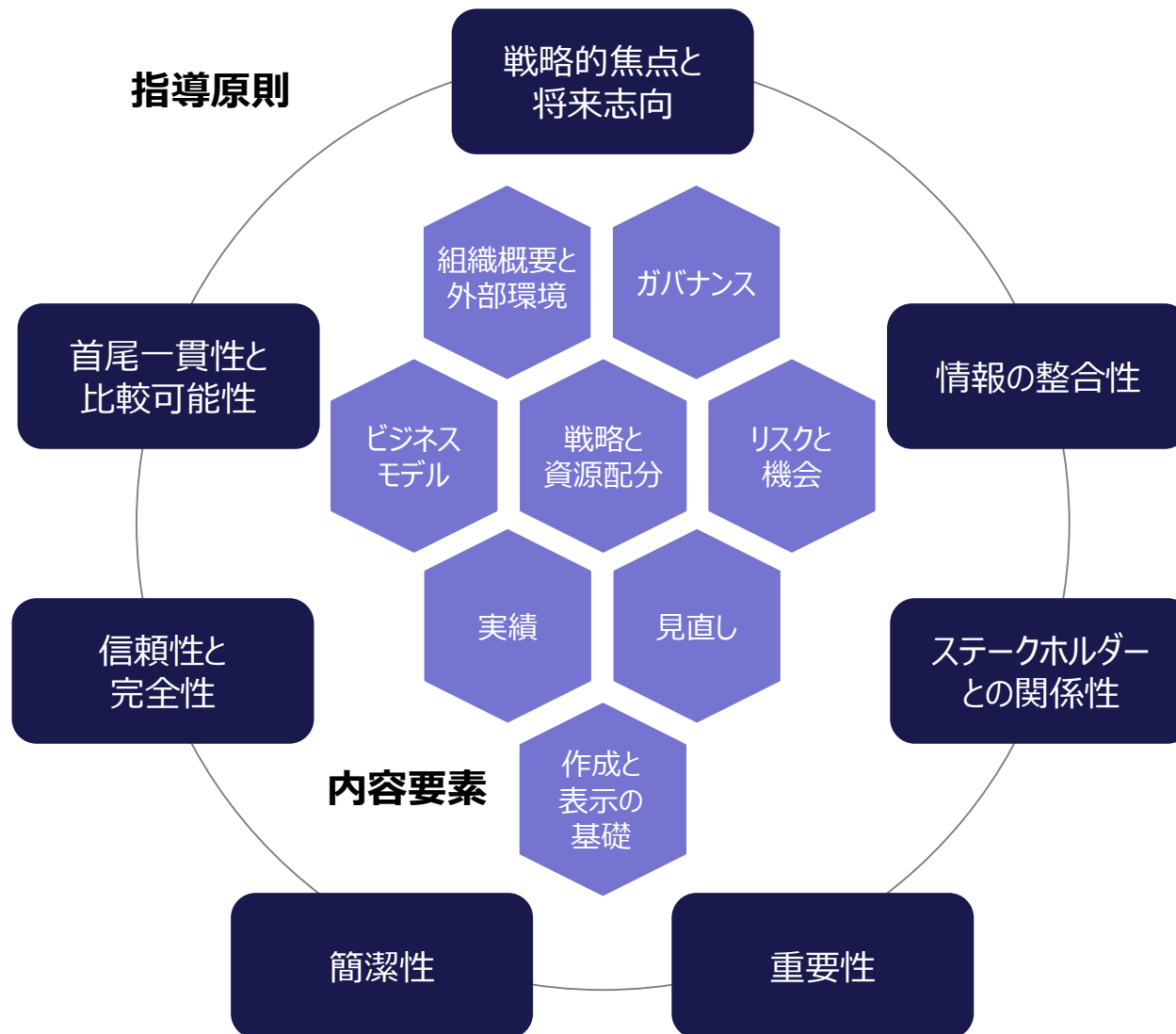
Why

- より効果的かつ生産的な投資家の意思決定に有用な情報を提供するため
- 短・中・長期的な価値創造に焦点を当てた、経営者の意思決定及び行動を強化するため

取り組みの概要

How

財務情報と非財務情報を統合して報告する際の原則、報告項目を規定。

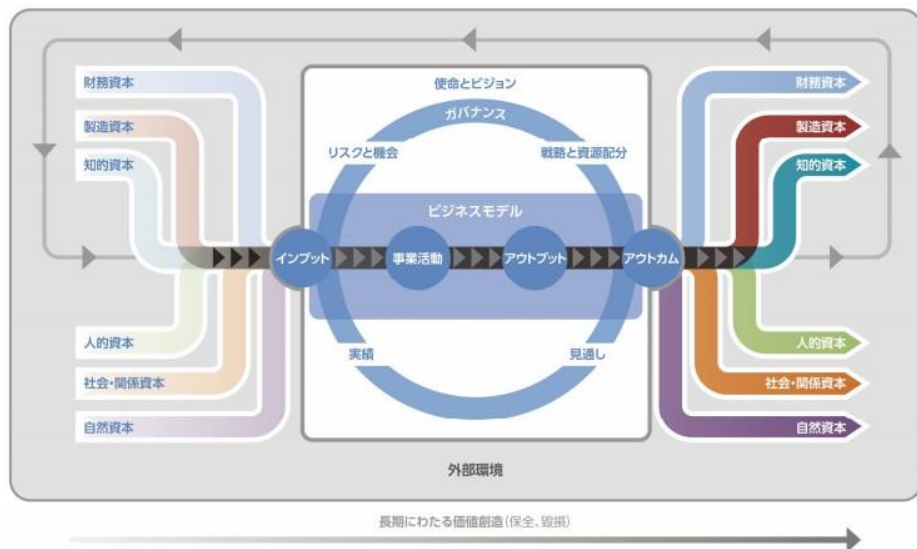


出所：FASID (2015)

**国際統合報告フレームワークは、社会的インパクト投資と同じ言語を使っている点、
正の社会的インパクトの報告も企業に求めている点で、画期的です**

社会的インパクト投資と同じ言語の使用

正の社会的インパクトの報告



「国際統合フレームワーク日本語版」P.15

“4.19 統合報告書は、次を含む主要なアウトカムを説明する。

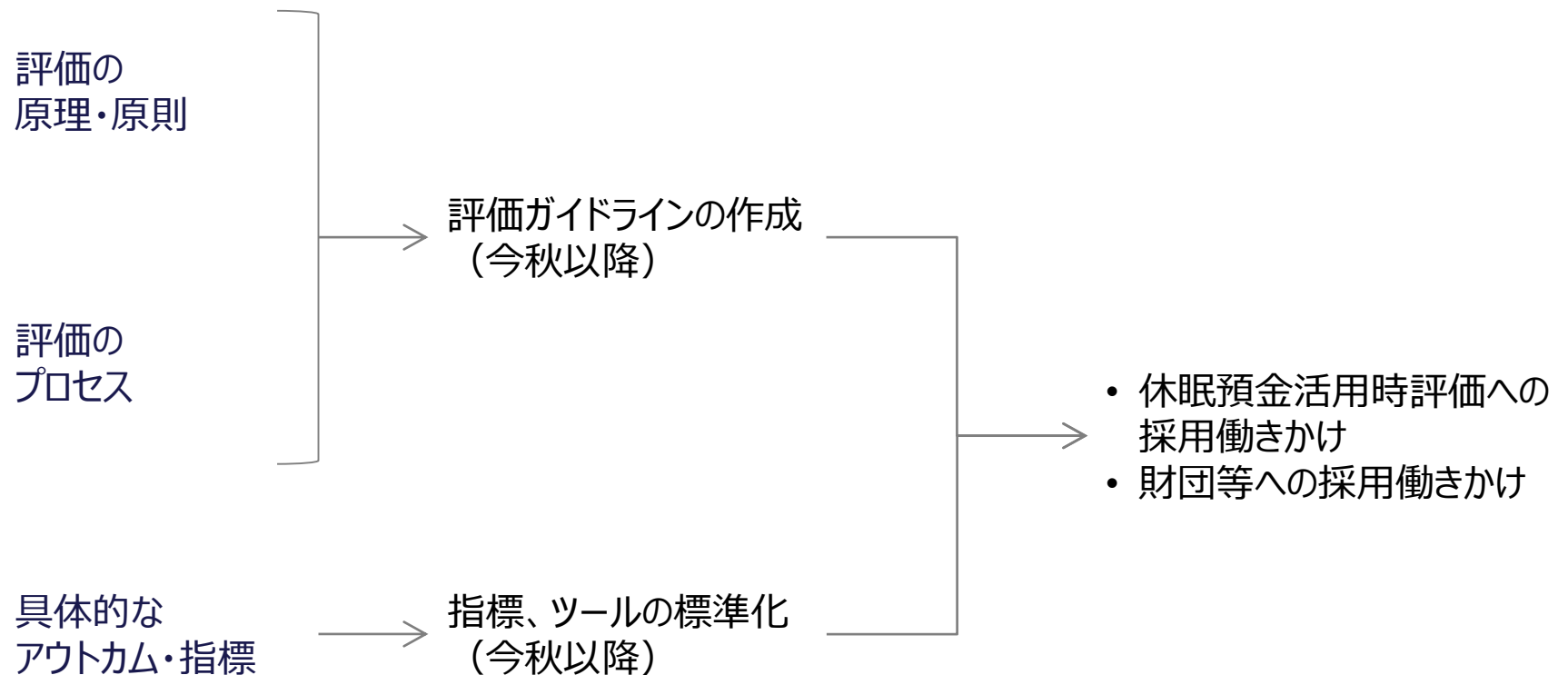
- 内部的なアウトカムと外部的なアウトカムの両方
- 正のアウトカムと負のアウトカムの両方”

「国際統合フレームワーク日本語版」P.29

日本における社会的インパクト評価標準化の動向

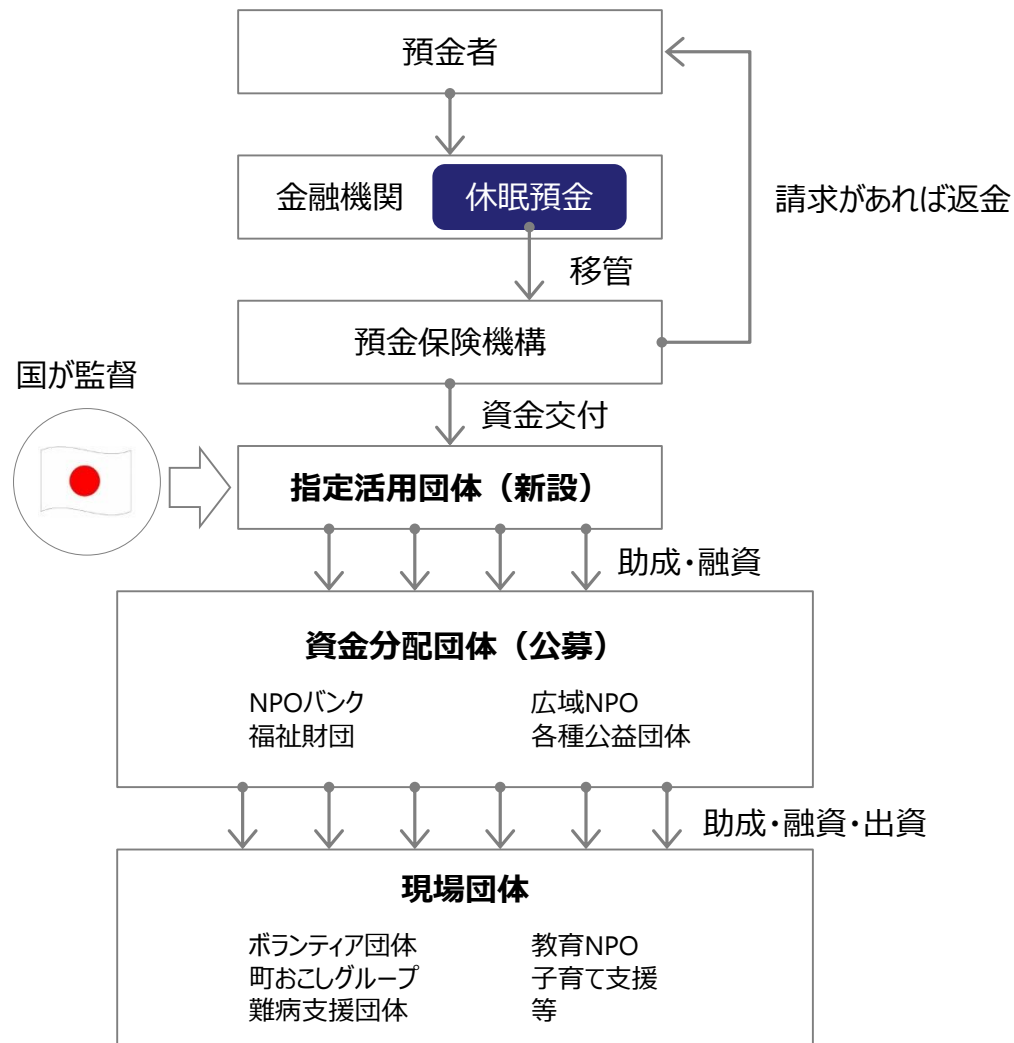
日本においても、G8社会的インパクト投資タスクフォース国内諮問委員会が中心となり、原理・原則、プロセス、アウトカム・指標の全てのレベルで標準化の取組みが進められる予定です

G8社会的インパクト投資タスクフォース国内諮問委員会の取り組み



出所：G8社会的インパクト投資タスクフォース国内諮問委員会第6回会合（2015年7月24日）配付資料を基に筆者作成

(参考) 休眠預金基金制度について



出所：2015年4月18日読売新聞（朝刊）「「休眠預金」活用議論再び 今国会で法案提出も」を基に筆者作成

社会的インパクト評価の標準化に向けた検討課題：3つのバランス

1. 投資家にとっての有用性と事業者にとっての有用性とのバランス

- 資金の出し手は、資金配分的意思決定のために評価結果を利用するため、異なる事業、組織でも比較可能な抽象度の高いアウトカム・指標での評価を指向
- 一方で、資金の受け手は、経営管理のために評価結果を利用するため、組織のビジョン・ミッション、そして事業の内容に応じた固有性の高いアウトカム・指標での評価を指向

2. 定量データと定性データとのバランス

- 定量データと定性データとを比較した場合、定量データの方が比較可能性や加工の容易性は高い
- 一方で、定量データに依存しすぎるとそのデータの解釈が難しくなり、社会的インパクトの本質を見誤る可能性がある（結果、資源配分の判断を誤る可能性がある）

3. 求められる評価の精度と現場の負担とのバランス

- 評価のデザインは、厳密性に応じていくつかのレベルに分かれる（次ページ参照）
- 一方で、評価結果の精度を高めようとするほど、現場への負担が大きい

(参考) 評価デザインの種類と厳密性のレベル

Level	Category	Method	Study design examples
5	Field experiments	Random assignment of treatment where subjects do not know they are part of a study. (eliminate effects of observation)	Natural field experiments
4	Controlled experiments	Random assignment of treatment where subjects know that they are part of a study or a suitable placebo is used in the control group (placebos are hard to deliver in policy settings).	Randomized controlled trials; Lab experiments; Artefactual field experiments; Framed field experiments; Naturally occurring experiments
3	Super quasi-experimental methods	Naturally occurring event that makes treatment assignment 'as good as random' (relies on a larger number of assumptions than level 4 and 5).	Instrumental variable methods; Regression discontinuity design; Difference-in-difference; Synthetic control; Third party 'blind' selection
2	Quasi experimental methods	Methods that attempt to replicate a randomized experiment. Treatment and control groups are matched on observable characteristics (or observable characteristics and factors are controlled for).	Regression analysis; Matching; Sub-classification; SEM; Selection bias modeling; Case control; Non-equivalent dependent variable analysis; Conditional contrast group; Cohort studies; Case selection studies
1	Non-experimental methods	Methods where there is a lack of a control group or use of a non-equivalent control group.	Before-after comparison; 'Naïve estimators'; Benchmarking; Unconditional contrast group; Qualitative methods
0	Theory-based methods	Impact judged based on theory or intuition which may or may not be supported by evidence from other interventions.	Theory of change and related methods

出所： Daniel Fujiwara "Introduction to Social Impact Assessment" 2015年4月6日「社会的インパクト評価トレーニング」配付資料

おわりに

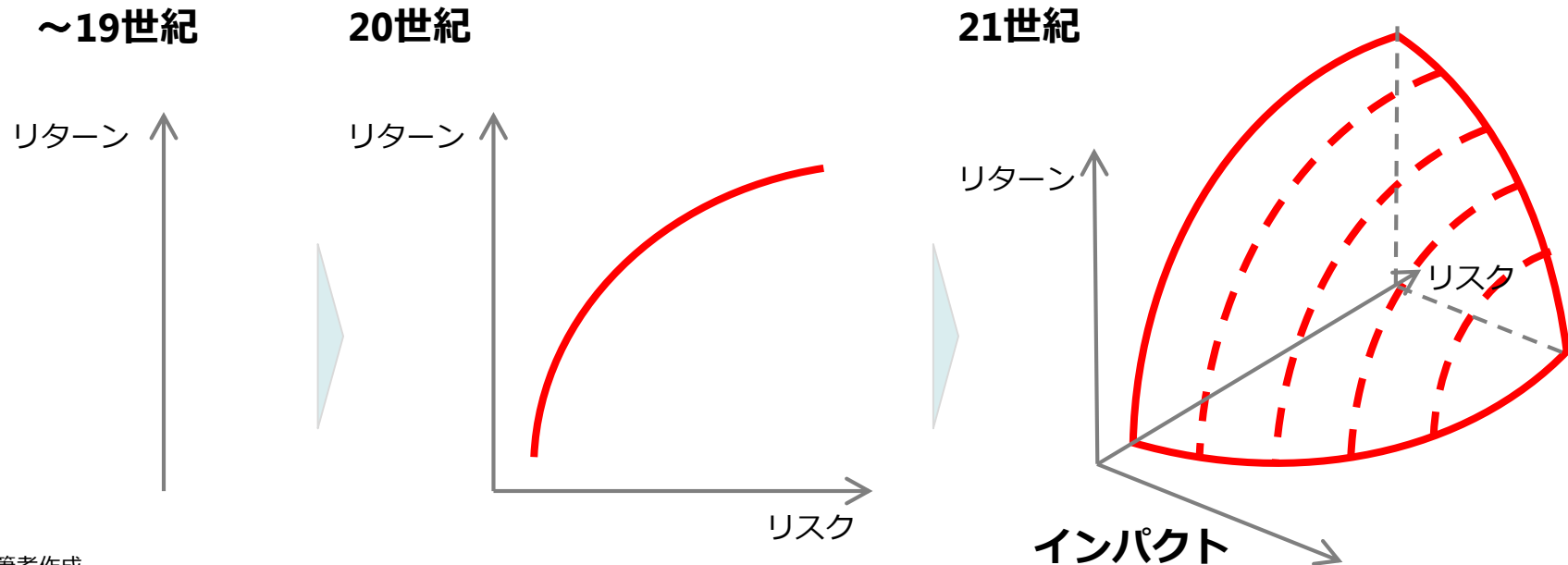
“19世紀までの投資判断はリターン中心であった。

20世紀に入ってリスクが欠かせない投資判断の要素になった。

21世紀はインパクトの時代になるだろう。

すでに投資判断はインパクトを含めた3軸に沿ってなされはじめている。”

Sir Ronald Cohen, the Chair of Social Impact Investment Taskforce



出所：筆者作成

ご清聴ありがとうございました

問い合わせ先

一般財団法人国際開発機構（FASID）
国際開発研究センター
社会的インパクト評価調査グループ
〒106-0041 東京都港区麻布台2-4-5
メソニック39MTビル6階
TEL: 03-6809-1997
FAX: 03-6809-1387
<http://www.fasid.or.jp>

報告書全文はFASIDホームページよりダウンロードできます。

http://www.fasid.or.jp/_files/activities/FASID_2015_report_socialimpactassessment.pdf

参考資料一覧

国際開発機構（FASID）（2015）「社会的インパクト評価促進に向けた現状調査と提言」

Cabinet Office (2009) A guide to Social Return on Investment

G8 Social Impact Investment Taskforce (2014) Measuring Impact, Subject paper of the Impact Measurement Working Group

Group d'experts de la Commission sur l'entrepreneuriat social (2014) Proposed Approaches to Social Impact Measurement in European Commission legislation and in practice relating to: EuSEFs and the EaSI

GRI (2013) G4 Sustainability Reporting Guidelines Reporting principles and Standard disclosures

IIRC (2013) The International <IR> Framework

Inspiring Impact (2014) The Journey to Employment (JET) Framework

IRIS (2013) Getting started with IRIS

IRIS (2014) IRIS Version 3.0

SASB (2013) Conceptual Framework of the Sustainability Accounting Standards Board